対人関係欲求とインターネット利用行動の関連性に関する研究

○谷平千絵¹・岩淵千明²

(1川崎医療福祉大学大学院医療福祉学研究科臨床心理学専攻・2川崎医療福祉大学医療福祉学部臨床心理学科)

キーワード: 賞賛獲得・拒否回避欲求, 所属欲求, インターネット利用行動

Study on Relationship between desire of personal relations and using Internet behavior

Chie TANIHIRA¹, Chiaki IWABUCHI²

(1KAWASAKI University of Medical Welfare Graduate School of Health and Welfare Master's Program in Clinical Psychology・

²KAWASAKI University of Medical Welfare Clinical Psychology, Faculty of Health and Welfare)

Key Words: praise seeking needs and rejection avoidance needs, need to belong, using Internet behavior

目 的

結 果

対人関係において、賞賛されたいとか拒否されたくないなどの対人関係に関する欲求は、自己呈示行動に影響を及ぼすと考えられる。Leary (1994)によると、自己呈示は対人場面において、自己に対する他者の知覚（印象）をコントロールしようとする過程と定義される。

近年では青年期における対人関係が希薄化してきていると言われている。その一方で、LINEなどのインターネット（以下、ネットとする）を介したコミュニケーションは、年々盛んになっている（三浦, 2008）。藤・吉田（2009）は、ネット上での行動内容を自己の表出・他者との関係・現実とのバランスという枠組みからとらえ、ブログやゲーム利用との影響を検討している。その結果、ブログは自己の問題点に対する客観視や明確化がなされやすく、それゆえに現実生活の他者との関係の改善につながると指摘している。これらのことは、ネット利用行動の背景には、青年期の若者の対人関係での欲求と密接な関係があるのではないかと考えられる。

以上のことから、本研究は所属欲求と賞賛獲得欲求、また、拒否回避欲求などの対人関係欲求とネット利用行動との関係性について検討することを目的におこなった。

方 法

調査協力者 K大学の大学生 272 名で、回答の不備を除いた 252 名（男性 95 名、女性 157 名）を分析対象者とした。

調査時期 2015 年 1 月から 2 月であった。

調査方法 大学の講義時間を利用して質問紙の配布をおこない、回答終了後に回収をおこなった。

質問紙 (1) **対人関係欲求** a. **賞賛獲得・拒否回避欲求** 小島ら (2003) の作成した賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度 18 項目を用いた。回答は 5 件法 (1. あてはまらないから 5. あてはまる) である。b. **所属欲求** 小林ら (2006) の所属欲求 (邦訳版) 尺度 10 項目を用いた。回答は (1. あてはまらないから 5. かなりあてはまる) の 5 件法である。(2) **インターネット利用** 藤・吉田 (2009) が作成したインターネット利用行動尺度 44 項目のうち、因子分析で付加量の高かった上位 3 項目をそれぞれ選択して 27 項目で構成した。回答は 5 件法 (1. あてはまらないから 5. あてはまる) である。

分析対象者 252 名のうち、スマートフォンまたは携帯電話を通信手段として利用している者は、249 名 (98.8%)、性別では男性 94 名 (98.9%)、女性 155 名 (98.7%) であった。通信手段を持っていないと答えた者は 1 名 (0.4%) であった。

「Facebook, mixi, LINE, twitter, メッセージまたはメール, ゲームアプリ, その他のうちどのインターネットサービスを 1 番多く利用しているか」には LINE が 161 名 (63.9%)、twitter が 25 名 (9.9%)、ゲームアプリが 21 名 (8.3%) の順で多かった。

対人関係欲求とネット利用行動との相関係数を表 1 に示した。賞賛獲得欲求はインターネット利用行動尺度の自己の表出 ($r=.29, p<.01$), 他者との関係 ($r=.40, p<.01$), 現実とのバランス ($r=.31, p<.01$) との間に有意な相関がみられた。また、拒否回避欲求と所属欲求 ($r=.58, p<.01$), 自己の表出と他者との関係 ($r=.77, p<.01$) においても、有意な相関がみられた。

次に、自己の表出、他者との関係、現実とのバランスを従属変数とし、賞賛獲得欲求と拒否回避欲求、所属欲求を説明変数とする重回帰分析 (ステップワイズ法) をおこなった。賞賛獲得欲求を説明変数としたとき、自己の表出 $\beta=.305$

($R^2=.07, F(3, 243)=7.56, p<.01$), 他者との関係 $\beta=.330$ ($R^2=.15, F(3, 244)=15.96, p<.01$), 現実とのバランス $\beta=.27$ ($R^2=.10, F(3, 245)=9.99, p<.01$) 全てに回帰式が有意であった。

考 察

対人関係欲求とネット利用行動の間には有意な相関がみられた。特に賞賛獲得欲求とネット利用行動には自己の表出、他者との関係、現実とのバランスの全てに有意な相関がみられ、拒否回避欲求と所属欲求、拒否回避欲求と他者との関係との間に有意な相関がみられた。このことから、他者との関係性を高める目的でネットを利用すること、相手に認められたい欲求との関係があることが示唆された。また、ネット利用行動に影響を及ぼす要因として賞賛獲得欲求があげられる可能性があることが明らかとなった。

表 1 対人関係欲求とネット利用行動の相関関係

	平均値	標準偏差	賞賛獲得欲求	拒否回避欲求	所属欲求	自己表出	他者関係
賞賛獲得欲求	24.74	6.59					
拒否回避欲求	30.19	6.88	.33 **				
所属欲求	30.64	6.15	.44 **	.58 **			
自己表出	24.66	7.17	.29 **	.09	.12		
他者関係	26.30	7.17	.40 ***	.19 **	.24 **	.77 **	
現実とのバランス	21.95	7.76	.31 **	.13 *	.10	.71 **	.63 **

* $p<.05$, ** $p<.01$